

山と博物館

第51巻 第7号 2006年7月25日

市立大町山岳博物館



立山カルデラ上空より(10月) 撮影 立山カルデラ砂防博物館

中央尾根の左、手前に針ノ木岳。手前の尾根、左側から獅子岳、ザラ峠、鷲岳、鳶山。

異人たちが訪れた

立山カルデラ

高野 靖彦

弥陀ヶ原台地の南に隣接する立山カルデラ。そこは今も崩壊を繰り返し、荒々しい地肌を露わにしています。明治初年、この崩壊地を通過し、ザラ峠と針ノ木峠を越え、平村野口（現大町市）へ続く山道が開削され「立山新道（針ノ木新道）」と呼ばれました。

政府に雇われて来日した異人たちは、夏期休暇を利用して、日本各地を旅行しました。彼らが好んだのは、北アルプスの山岳美とそこに息づく独自の文化でした。イギリス大使館のサトウは、立山新道を利用して、「雪の溶けた二三日間、牛が通過した」と報告しています。明治八年、イギリス人のガウランドが、外国人初の立山登頂を果たし、翌年にはドイツ人地質学者のナウマンが、立山周辺の地質を調査。彼らの登山は従来信仰登山とは大きく趣を異にしており、調査・研究が主な目的でした。

今夏、立山カルデラ砂防博物館では、企画展「異人たちが訪れた立山カルデラ」（七月二十二日～八月三十一日、観覧無料）を開催いたします。越中と信州を結んだ山の夢、立山新道。当時の異人たちの目に映った立山カルデラとはどのようなものだったのか。市立大町山岳博物館のご協力のもと、資料・映像等により北アルプスの知られざる一面をご紹介します。

（立山カルデラ砂防博物館学芸員）

平成一六・一七年内における

ライチョウの観察記録

清水博文

筆者らは、平成一六・一七年内に北アルプス爺ヶ岳・針ノ木岳・蓮華岳・烏帽子岳において断片的ではあるがニホンライチョウ (*Lagopus mutus japonicus* Clark) の育雛活動、採餌行動等について観察する機会を得たので報告する。なお、報告には既知の記録も含まれるが、一観察例として紹介する。

観察事例1

・日 時…二〇〇四年七月二三日
七時一五分―八時五〇分
・天 気…晴れ
・場 所…烏帽子岳
標高約二六〇〇mの登山道上
・観察個体…ライチョウの親子(雌親・雛鳥)

一(個体)とこの親子と行動を共にする成鳥メス一(個体)。

・観察者…清水博文・千葉悟志
・育雛・採食行動

三(個体)は登山道脇のクロマメノキ(ツツジ科)、コケモモ(ツツジ科)などの葉を採食していたが、雛連れでないメス個体は、ハイマツの根元に営巣していたアリの巣を嘴と脚で破壊し、中から飛び出してくるアリを捕食していた。捕食されていたアリは、クロヤマアリ(ヤマアリ属)に類似していたが、体色はやや光沢が認められ、脚は褐色、触角柄節などが黄色を帯びていたことなどから同属のヤマクロナガアリ (*Formica lemaiti* Bondroit) と思われた。また、一〇時三〇分―一時〇〇分に上記観察場所とほぼ同一場所の砂礫地で三(個体)とも砂浴び行動をしていた。雛鳥は親鳥ともう一(個体)の成鳥メスとの間を行き来するなどの行動をしていたが、親鳥は成鳥雌を排除するなどの行動は見せなかった。当日はかなり気温が高く成鳥・雛鳥ともに開口呼吸をしながらの砂浴びであり、雛鳥は頻繁にハイマツの影に入り込み暑さを避けていた。

・育雛・採食行動

採食を確認した植物は次のとおりである(表1)。また、霧が濃く気温は低かったことから雛鳥は採食行動時以外、親鳥の腹下に入り込み暖をとる行動をしていた。

観察事例3

・日 時…二〇〇五年七月二一日
一二時〇七分―一二時五〇分
・天 気…晴れ
・場 所…蓮華岳
標高約二七五〇m付近の登山道脇

・観察個体…ライチョウの親子(雌親・雛六(個体)計七個体)

・観察者…清水博文・千葉悟志

・採食行動

コケモモ・ハイマツ群落周辺において休息、採食行動をしているライチョウの親子を観察していたところ、雌親が今まで観察記録がないと思われるコマクサ(ケシ科)の花を採食したことを目視およびビデオ撮影により確認した(写真1)。観察場所はほぼ一面がコマクサの群落であったが、採食行動は一回限りであり嗜好性は高くないと思われた。

観察事例4

・日 時…二〇〇五年九月二八日―三〇日
・場 所…爺ヶ岳南峰標高約二五五〇mの登山道付近

・観察個体…成鳥五(個体(オス二、メス三))、

若鳥三(個体)であり、成鳥メスはそれぞれ若鳥を一(個体)連れていた。

表1 8月の針ノ木岳で確認したライチョウの食餌植物

種名	科名	備考
オクヤマワラビ	オシダ	※
イワショウブ	ユリ	
ミヤマタネツケバナ	アブラナ	※
ミヤマトウキ	セリ	
ガンコウラン	ガンコウラン	※
アオノツガザクラ	ツツジ	※
ミヤマホツツジ	ツツジ	
ヨツバシオガマ	ゴマノハグサ	
タカネヨモギ	キク	※

※雛鳥の採食も確認できた植物

表2 9月の爺ヶ岳で確認したライチョウの食餌植物

種名	科名	採食部位
ハイマツ	マツ	葉・球果の包鱗
ホンドミヤマネズ	ヒノキ	葉
ミヤマハンノキ	カバノキ	枯葉
クロマメノキ	ツツジ	葉・果実
ウラシマツツジ	ツツジ	葉

観察事例2

・日 時…二〇〇四年八月六日
七時一〇分―八時一〇分
・天 気…晴れ時々霧
・場 所…針ノ木岳
標高約二六二〇mの登山道脇

・観察個体…ライチョウの親子(雌親・雛鳥三(個体)計四(個体))

・観察者…清水博文・千葉悟志

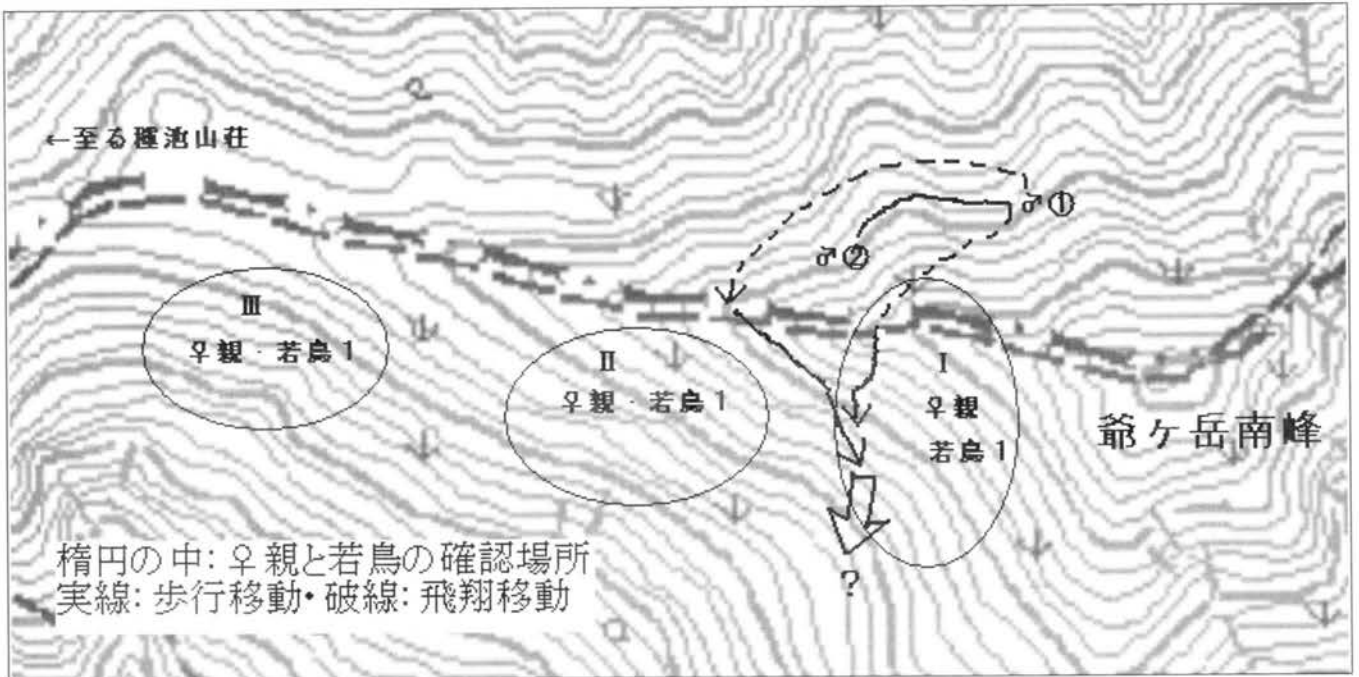


図1 個体位置図

・ 観察者：清水博文・関悟志
 ・ 家族群崩壊期における行動
 ・ 観察した各個体の位置関係は図に示したとおりである（図1）。
 ・ オスの追尾行動：九月二十九日一五時二〇分—一六時〇〇分にナワバリ形成期におけるオスのナワバリ防衛的な行動を観察することができた。メス・若鳥一の行動圏で活動しているオス一とこの三個体の行



写真1 コマクサをついばむライチョウ

動圏に隣接した場所にいるオス一において、オス同士の追尾行動が観察された。

一五時二〇分、オス（♂①）が鳴いた直後、もう一羽のオス（♂②）が鳴きながら♂①のいる方向に歩行移動した、対峙したところ直ぐに♂①が爺ヶ岳南峰の尾根へ飛翔した。♂②は、登山道付近にいた親子（雌親、若鳥一）の所へ飛翔移動し、三羽となり行動するが、一五時三五分、♂②は若鳥を追尾する行動も見られた。一五時四〇分、♂①は、三羽のいる所へ歩行移動し、雌親に接近したところ、再び♂②が♂①を追尾し続け、一五時五〇分には四羽とも深いハイマツの中へ入り込んでいった。

この行動は、家族群の崩壊の頃に見られる翌年の繁殖期の順位がほぼ決められる秋分の頃のオスの間で行われる争い（平林一九九二）に該当すると考えられた。この時オスは二個体とも肉冠が明瞭に開いているのが観察できた。

・ 採食行動

目視確認したライチョウの食餌植物は次のとおりである（表2）。また、クロマメノキ等の果実を採食した餌由来と考えられる紫色を呈し、かなり水分含有量が多い糞を多数確認した。

（市立大町山岳博物館学芸員）

文 献

- 平林国男（一九九二）「北アルプスのライチョウ、ライチョウ 生活と飼育への挑戦」（大町山岳博物館編）二四七—四九、信濃毎日新聞社。
- 久保田政雄（二〇〇三）「日本産アリ類全種図鑑」学習研究社。

バックナンバーのお知らせ

次の巻号の「山と博物館」バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合わせください。(編集部)

▽第44巻5号(平成11年5月)

「アルプスの見える風景―中沢義直とその仲間たち―」開催にあたって 中沢義直 写真展「アルプスの見える風景」

―中沢義直とその仲間たち―より

▽第44巻6号(平成11年6月) 高橋貞夫 師は樹なり

「木芸と彫彩―40年の軌跡―

高橋貞夫より 高橋貞夫

▽第44巻7号(平成11年7月)

水 横川 仁 最近の水生昆虫と淡水魚 東城幸治

▽第44巻8号(平成11年8月)

雲 飯島紀子 中部山岳協会の思い出 沼田 泉

お別れの言葉 相模 一男

▽第44巻9号(平成11年9月)

ユーモアと人間愛 金田国武 私の中で遊ぶ子どもの心 羽田智千代

▽第44巻10号(平成11年10月)

空―毎日、空を眺める暮らし― 藤沢 秀 ちゃんめろに春を想う 尾沢 洋

▽第44巻12号(平成11年12月)

雪―恐怖の体験― 丸山優子 鹿島槍ヶ岳のもう一つの魅力

―カクネリの多党性雪渓―(後編)

▽第45巻1号(平成12年1月)

新しい年 有川美保子 山仕事の古今(前編) 狩野清高

「カモシカの角」あれこれ 千葉彬司

▽第45巻2号(平成12年2月)

静―自然からの感性― 平林照雄 山仕事の古今(後編) 狩野清高

北海道における猛禽類の現状

―ワシ類の鉛中毒― 黒沢信道

▽第45巻3号(平成12年3月)

光と山 武田 武 ニホンカモシカの呼び名と語源

―百六十三種の分類―(完結編)①

▽第45巻4号(平成12年4月)

植物写真クラブれんげそう写真展 北村嘉寶 植物写真クラブれんげそう

山の大猛禽類イヌワシとクマタカ

ニホンカモシカの呼び名と語源

―百六十三種の分類―(完結編)②

▽第45巻5号(平成12年5月)

植物写真クラブれんげそう 須藤一成 山の大型猛禽類イヌワシとクマタカ

開催にあたって 大町山岳博物館

ニホンカモシカの呼び名と語源

―百六十三種の分類―(完結編)③

▽第45巻8号(平成12年8月)

「緑」それは心のオアシスだ 松原 繁 残された三人の(字)―「西糸屋」を愛された

岳人の絶筆・墨跡ものがたり②

イヌワシ飼育奮闘記(前編)

▽第45巻9号(平成12年9月)

開催にあたって 大塚浩司 特別展「清流に泳ぐ手作りの魚たち」

イヌワシ飼育奮闘記(後編)

▽第45巻10号(平成12年10月)

秋空の下で 大塚浩司 北アルプスに生息するツキノワグマ

▽第45巻11号(平成12年11月)

冬の訪れ 泉山茂之 山本携拳

ニホンカモシカの呼び名と語源

―百六十三種の分類―(完結編)④

ウエストンと「日本アルプス」の誕生

田畑真一

▽第45巻12号(平成12年12月)

失われゆく野の花 倉科和夫 湖にすむ生き物たち(前編) 中井克樹

▽第46巻3号(平成13年3月)

「第1回ライチョウ会議」アピール文 山岳博物館編

第1回ライチョウ会議(前編)

ライチョウの腎臓におけるシユウ酸塩沈着

山岳博物館編

芳川恵一

▽第46巻4号(平成13年4月)

開催にあたって 実行委員会・山博 大町山岳博物館50周年記念特別企画展

「熊谷樵油絵展―山・雪・人―」よせて

熊谷 樵

▽第46巻5号(平成13年5月)

開催にあたって 実行委員会・山博 岩橋崇至写真展―北アルプス幻想行―

岩橋崇至

(敬称略)

バックナンバーの請求方法

右記にご希望の巻号がありましたら、一部一〇〇円にて販売いたします。博物館窓口でお申し込みいただくか、または巻号・部数をお明記の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛代金をご送金ください(送料当方負担)。

山と博物館 第51巻 第7号

発行 市立大町山岳博物館 長野県大町市大町八〇五六一 市立大町山岳博物館 2006年7月25日発行

TEL 〇二六―二二―二二二二 FAX 〇二六―二二―二二二二 E-mail: smpk@city.omachi.nagano.jp URL: http://www.city.omachi.nagano.jp/smpk/ 印刷 奥村印刷 定価 年額 一、五〇〇円(送料含む)(切手不可) 郵便振替口座番号 〇五四〇七二二九九三

